

令和5年第2回滝川市議会定例会市政執行方針等に対する質問

質 問 順 位	1	質 問 者	高 橋 江海子 議員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
1. 安心して子どもを育み、学び、笑顔あふれるまち	1. 妊婦に対する経済的支援について	1. 全ての妊婦に安心して出産・子育てができる環境を整備しますとあるが、本市は妊婦特有の合併症で産科外での治療の必要なもの（妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、気管支喘息、妊娠性歯肉炎、痔ろうなど）に対しての医療費助成がない。合併症リスクの高い高齢出産・不妊治療も増え続けている昨今、たとえ病気であっても安心して妊娠出産できるようにするために、合併症に関しても医療費の一部助成をするべきと思うが、見解を伺う。		
		2. 過去5年間の本市の母子手帳を交付した妊婦の数の平均は231人であることから、全国の合併症のある妊婦の割合32%（厚生労働省データ）を抜き出して予測される滝川市の合併症患者の人数はおよそ74人である。妊娠糖尿病の患者の合併症治療費は健康保険で3割負担でも総額約5万円。妊娠高血圧症候群では約4万円。試算すると最大で年間おおよそ3百万円あればほとんどの妊娠合併症の医療費助成が可能となる。財源確保が課題であるが、国ではこども家庭庁も発足されているので実現不可能ではないと思われる。見解を伺う。		
	2. 産後ケア事業について	1. 現在実施されている産後ケア事業は、宿泊型や通所型であり、全て砂川市立病院が行っている既存の事業を利用している形である。滝川市内で行う産後ケア事業（母乳指導など）の計画はあるか。できないとしたら何が原因なのかを伺う。		
		2. 出産後の母子に対する産後ケア事業は示されているが、一方で行政と民間が連携して行う産後ヘルパー事業についても市民の期待が非常に高まっている。 市内にある既存のヘルパー事業（買い物代行や家事代行サービスなど）を出産後の親等が利用した場合に一部助成を行うことについてどのように考えるかを伺う。		

質 問 順 位	1	質 問 者	高 橋 江 海 子 議 員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
	3. 安心して子どもを育てる環境について	1. 高齢者の中には子供への虐待に対するそもそもの認識が薄い方もいて、事案の発生の認知や通報に繋がりにくいこともあるのではないか。 そうした認識の薄い方に対してもより効果的な啓発活動を行うべきと考えるが、見解を伺う。		
2. 健康で、優しく、安全に暮らせるまち	1. 福祉サービスの提供体制について	1. 現在滝川市内には約 190 人ほどの子供たちが障がい児通所支援を受けている。必要な福祉サービスの提供へ円滑に繋げるためには、行政と保護者間だけではなく民間の支援員等との日頃の緊密な連携が必要と思うが、本市ではどのような連携を取っているのかを伺う。		
		2. 数年前は約 160 人であった利用者が現在 190 人程度になっているのに対し、発達支援センターの相談員の数は 2 人である。 国の基準は満たせてはいるものの、個別のケアプラン作成、保護者からの相談、支援員との連絡調整など業務は多岐にわたる。 利用者が増えた分、より細やかなサポートに繋げるためにも相談員の増員は必要ではないだろうか。見解を伺う。		